

平成29年度における大竹市の決算状況

1 収入及び支出の状況

平成29年度の一般会計並びに特別会計の決算における収入・支出は、第1表、第2表のとおりです。

一般会計における歳入総額は、144億965万7,248円（対前年度比5.5%減）、歳出総額は、143億7,038万9,430円（同比4.9%減）となり、歳入・歳出決算額とも前年度を下回りました。

形式収支は、3,926万7,818円の黒字となり、翌年度へ繰り越すべき財源1,850万7,000円を差し引いた残額、すなわち実質収支は、2,076万818円となりました。

（1）歳入の状況

財源の根幹となる市税は、法人市民税が約4,736万円減少したものの固定資産税が約2億5,728万円、個人市民税が約634万円増加したこと等により、市税全体では約2億479万円（対前年度比3.8%）の増となりました。

また、地方交付税は約1億5,288万円（同比10.5%）の減、地方消費税交付金は約1,079万円（同比2.1%）の増となりました。

市債は、臨時財政対策債や建設事業債の発行はあるものの、玖波小学校施設整備事業の終了等により、約2億9,792万円（同比14.2%）の減となりました。

（2）歳出の状況

歳出は、「住みたい、住んでよかったと感じるまち」をまちづくりのテーマとした第五次大竹市総合計画「わがまちプラン」のもと、「大竹市が笑顔や元気がかがやいているまち」になるよう、次の事業に取り組みました。

- ① 大竹を愛する人づくり
- ② 生活基盤が整ったまちづくり
- ③ 安全なまちづくり
- ④ 安心できるまちづくり
- ⑤ 心にゆとりを感じるまちづくり
- ⑥ 行政・社会の仕組みづくり

① 大竹を愛する人づくり

大竹を愛する人を育てることは、大竹が好きな人をつくることであり、まちづくりに自覚と責任が持てる人を増やしていくことでもあります。これがまちづくりの推進力となるという視点に立ち、事業を実施しました。

主な取り組みは、「**中学校教育振興事業**」として、中学校3年生の英語検定の受験に要する費用を助成することで、英語学力の向上や学習意欲の向上を図りました。

② 生活基盤が整ったまちづくり

人が「ここに住もう」と決定する際に最初に考えるのは「そこに働く場所があるか」、「働く場所からどれくらいの距離があるか」という生計に関連したことや、基本的なまちの機能である生活環境についてではないかという観点から、事業を実施しました。

主な取り組みは、「**晴海臨海公園整備事業**」として、大型複合遊具や健康遊具などを設置し、幅広い年齢層の方が訪れる公園の整備を進めました。

③ 安全なまちづくり

人が「ここに住もう」と決定する際に、次に決め手となるのは「災害や犯罪、事故、火災などに対して、安全が確保されているか」ではないかという考えから、どのようにして市民の安全を確保するかという視点で事業を実施しました。

主な取り組みは、「**防犯対策事業**」として、安全なまちづくりの推進のため、新たに防犯カメラを2台設置しました。

④ 安心できるまちづくり

「安全」の次に重要なのは、ライフステージのそれぞれの段階での社会保障制度、つまり、高齢者福祉や児童福祉、医療体制などの充実ではないかと考え、事業を実施しました。

主な取り組みは、「**病児保育運営委託事業**」として、市域を越えて病児・病後児保育の利用を可能とするため、広島広域都市圏内で相互利用に関する協定を締結しました。

⑤ 心にゆとりを感じるまちづくり

人が最終的にまちに求めるものは、「ゆとり」や「豊かさ」、「生きがい」など、生活の質の向上ではないかと考え、「生涯を通して生きがいを持ち、活き活きとこのまちで暮らしてほしい」という視点で事業を実施しました。

主な取り組みは、「**総合市民会館改修事業**」として、利用者の環境改善のた

め、空調設備や身体障害者用トイレの改修、総合体育館トレーニングルームのトレーニング機器を更新しました。

⑥ 行政・社会の仕組みづくり

総合計画に連なるすべての施策を実施するには、「ヒト（人的資源）・モノ（物的資源）・カネ（資金）」に代表される地域資源が必要です。「地域資源をいかに有効に使い、実りの多いまちづくりをする」という視点と、健全な行財政運営を推進し効率的で投資的効果の高いまちづくりを目指し、事業を実施しました。

主な取り組みは、「**大竹会館改修事業**」として、改修の方向性を決定するため、老朽化している大竹会館の改修計画を策定しました。